



第 191 号

編集発行

愛知学院大学
事務局 庶務課

☎ 470-0195

愛知県日進市岩崎町
阿良池 12

電話 (0561) 73-1111(代)

地域連携センター 名城公園キャンパスに開設

愛知学院大学は、2年後の創立140周年を視野に、新たな飛躍を目指し「教育で選ばれる大学」と「地域のための大学」の2つの指針を打ち出しました。「地域連携センター」は、このような中、名城公園キャンパスの開校とともにスタートしました。紙面をお借りし、大学が地域連携センター（以下、連携センター）を設立するに至った背景、連携センターの狙いと事業について説明させていただきます。

愛知学院大学は、2年後の創立140周年を視野に、新たな飛躍を目指し「教育で選ばれる大学」と「地域のための大学」の2つの指針を打ち出しました。「地域連携センター」は、このような中、名城公園キャンパスの開校とともにスタートしました。紙面をお借りし、大学が地域連携センター（以下、連携センター）を設立するに至った背景、連携センターの狙いと事業について説明させていただきます。

また、教員個人に行った調査に基づき、3つの視点から「研究」成果の普及についてみてみると次のことが分かりました。①地域との共同研究数（地域社会、一般社会へのシンクタンク機能）「81件」、②地域への研究成果の還元状況（「知識・技能の提供」及び「イノベーションの支援」）「65件」、③地域の学校教育への支援を行う教員数「93人」（平成24年度調査）。講師以上の専任教員が約450人であることを考えると、本学教員の社会貢献に対する積極的な姿勢が窺えます。

学生の成長と地域の発展を一体的に目指す
連携センターは、「自律的で持続可能な地域社会の形成」を理念に掲げ、その実現のため学び舎の特徴を活かし「コミュニティ・ラーニング力UP」「地域活力の源泉づくり」をコンセプトに事業を展開しています。

事業は次の3つの領域に分かれます。①要望にこたえ地域や企業・団体等の問題を解決する「コーディネート事業」。②地域のあり方を自ら決定し

直接的な社会貢献を大学「第三の使命」とする時代に突入！
平成17年1月に文部科学省中央教育審議会は、「我が国の高等教育の将来像」と題する答申を発表しました。その中で、国際協力、公開講座、産学官連携等を通じたより直接的な社会貢献の必要性の高まりを反映し、大学「第三の使命」として「社会貢献」を位置づけました。

政府が策定した「第2期教育振興基本計画」（期間…平成25～29年度）では、「①社会を生き抜く力の養成」「②未来への飛躍を実現する人材の養成」「③学びのセーフティネットの構築」「④絆づくりと活力あるコミュニティの形成」といった、教育再生の

個人中心に進んできた直接的な社会貢献活動
本学の直接的な社会貢献活動の現状を、入手できる最新調査に基づき確認してみます。地（知）の拠点を「学」と「研究」の2領域に分けてみました。

社会人向け「学」の代表は生涯学習事業です。公開講座700人（年2回）、開放講座1100人（通年）、モーニングセミナー3500人（通年）で、他の公開セミナーを含めると5500人を超える社会人の方々の学び舎となっています（平成25年度）。この規模は、愛知学長懇話会参加大学の中でもトップクラス

組織的なサポート・マネジメント・システムが欠かせない
他方で、組織的な対応が課題でもあります。今までの成果は、どちらかといえば教職員の「個」の力に支えられたものでした。しかし、地域社会からの要請は、「組織」としての企画提案型の対応を求めています。

図 連携の構図と問題の所在～産学官民連携編～
大学
内から外
外から内
外から内そして外
社会との連携の輪
産学官民連携
提案
問題解決「知」の実践
吸収
新しい実践「知」の体系化
実証
「知」の未来デザインと実践
実践教育とキャリア・デザイン支援
問題解決と育成
目的が明確で、必然性がある
ボランティア・インターンシップ・実習・グローバル・ビジネス・リテラシー等の問題
全学的な既存「知」の抽出と統合
求められるサポート・マネジメント・システム

産学官民連携
目的が明確で、必然性がある
ボランティア・インターンシップ・実習・グローバル・ビジネス・リテラシー等の問題
全学的な既存「知」の抽出と統合
求められるサポート・マネジメント・システム

産学官民連携
目的が明確で、必然性がある
ボランティア・インターンシップ・実習・グローバル・ビジネス・リテラシー等の問題
全学的な既存「知」の抽出と統合
求められるサポート・マネジメント・システム

実践する「地域振興人材育成事業」。③地域連携学を体系化する「研究事業」。
4月の開設以来、包括協定を結ぶ日進市（平成22年度締結）、名古屋市中区（同25年度締結）と隔週で共同研究を行い、その中で明らかとなった課題を克服するプロジェクトを企画、推進しています。

次年度からは、このプロジェクトが、学生、社会人が一緒に学ぶ実践学習の「こと」と「場」になります。愛知学院大学は、所属学部は問わず履修できる自由選択科目として展開することを予定しています。学生にとっては、社会課題を解決する現場に立会い、変わる瞬間を経験し、思いやりの意味を知り、内面から変化する機会となるはずで

去る5月10日後援会総会に於きまして、後援会会長という大役に選任され就任致しました青山でございます。大変微力ではありますが伝統ある愛知学院大学後援会会長として本部役員の皆様と共に力を合わせ、小出学院長先生、大野学長先生初め教職員の皆様のご指導を頂き、精一杯努力してまいりますので会員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて愛知学院は明治9年、曹洞宗によって曹洞宗専門学支校として創立され、138年の歴史と伝統を持ち、中学、高校、大学、大学院を備えた中部地方屈指の総合学院であります。「行学一体」の人間形成に努め、「報恩感謝」の生活のできる人間を養成するという建学の精神に基づき一貫した教育がなされております。その中心にあります愛知学院大学は現在9学部18学科と

就任挨拶 後援会会長に 選任されて



後援会会長 青山 稔

短期大学部1学科、大学院9研究科13専攻を備え、学生総数1万1千名を超える中部地区最大の規模を誇る総合大学であります。本校を卒業された同窓生数も12万人を超えており、各地各業界で大変活躍されております。

本年度の事業を簡単に紹介させていただきます。
一、支部懇談会の開催
本年度は6月7日より6月29日までの土日を利用して全国24会場で開催されました。後援会本部役員、大学代表の各先生方、教務・学生・キャリアセンター各課の担当者がチームを作り全会場を訪問させて頂きました。また就職内定者（学生）も同行し就職活動報告もさせて頂きました。ご参加頂いた会員皆様から、大変ためになったという声を聞く事ができました。また、参加頂きました皆様からアンケートにより、様々なご意見・ご要望が寄せられました。



夏の学び・ 人生の宝

教務部長
續 伯彦

4月からの講義受講と勉学の成果を測る定期試験を終えて、夏季休業期間(夏休み)が始まります。休みと呼ばれるためか、何もせず心身を休ませるための期間と決め付けている向きも少なくないようです。数週間後に再会して、「何してた?」と聞かれたとき、「別に、普通にしました。」と答えても、叱られる理由は無いと心得ている人ばかりです。

学期中の勉学を仕事であるかのように、或いはさせられている人と受身に捉えている人の意見・感覚でしょう。しかし、学生というのは、他の誰かに指示されるのではなく、自らを育て、社会の一員として責任ある仕事を担えるだけの力量を蓄えるために確保された時間と身分です。学期中の勉学はどうしても知識の継承に偏りがちで、週単位のスケジュールに支配されていますが、長い休みには集中・継続して課題に取り組むことが出来ます。学科や学部の仲間以外の幅広い人々とも出会いを通じて、自分に足りないところを補い、自分の強みを伸ばすには、最適な条件です。そうした幅広い学びの機会としてこの夏休み期間を捉え直してください。

りその言語世界に浸かる時間を確保しましょう。学期中に学んだ学問分野への関心を深めるために関連の書籍を集中して読み進めましょう。旅行に出たときなどは、単にサードビズを買うだけでなく、それらがどのように提供されているか、美しい風景がなぜ保たれているかにも想いを巡らせ、社会の営みを読み解くことを心がけて欲しいものです。資金獲得のためにアルバイトに時間を割く場合でも、単に時間の切り売りではなく、それぞれの業界の仕組みや動き、専従して働く人たちの技術を学び取る時間にしたいのものです。夏休みは学生諸君にとってまたとない多様な学びを進めることが出来る時間です。私は(もう半世紀近い昔ですが)、クラブの練習と、長編小説の読破と、友人との旅行、高学年では継続観察が必要な実験・研究が夏休みの主題でした。

皆さんがこの大学だよりを目にする頃には、夏季休暇の解放感に浸っておられることでしょう。定期試験前から、この夏をどのように過ごすかと、色々と計画を練っていた方も居られるかも知れません。夏季休暇は、2月から3月にかけての年度末休暇と比べて、期間がやや短く、しかも学期制の現在では、後半には秋季の準備が入ってきますから、やや慌ただしいものになっています。しかし、夏という季節の明るさ、開放感も手伝って、1年を通して最も楽しい時期であることは、私が大学生であった頃と変わりません。

夏はいつの時代も、誰もが何か浮き浮きした気分になる心躍る季節です。学生の皆さんは、海や山に行楽に行ったり、国内や海外に旅行をしたり、この夏休みの間、いろいろと楽しまれることと思います。高校生の時ならば、行楽や旅行といっても、大抵は親や先生など大人の目が光っていたことでしょう。しかし、大学生である皆さんは、旅行や行楽といっても、一人で行動したり、友達だけで動くことが多いはずです。高校までは許されなかったことが大学生なら大目に見てもらえることが数多くあります。これは、大学生は一人前とはいえないとしても、一応独立した大人として扱われることを意味しています。同時にそれは、その分だけ自分で責任を負わなければならないという



自覚を持つて

学生部長
高木 敬一

うことでもあります。それでも授業期間中ならば、多くの教員や職員が注意を払っていますから、全く自分達だけということは少ないでしょうが、休暇中はそのような配慮を期待できない場面が多いでしょう。大学生として、皆さん自身のことは皆さん自身が気を配り、対応しなければならぬことは当然ですが、夏季休暇中は自らそのような気配りや注意を払う必要が普段よりも一層あるといえます。

クラブに属している皆さんは合宿などクラブの活動が待っているでしょう。そのようなとき、一人ひとりの体調に気を配り、事故のないように、皆さん自身が注意することが必要です。熱中症には特に気を付けなければなりません。日々の暮らしの中で自らの体調を管理し、不調を感じたときに適切に対応する責任も皆さん一人ひとりにあります。また、海や山に行楽に行ったり、天候などの状況に適切に判断し、危険を回避することも、皆さん自身が行わなければならないことです。

しかし、夏の楽しい、浮き浮きした気分はそのような配慮、注意を忘れさせがちです。つい行き過ぎてしまったり、周りの雰囲気にならなったりしてしまうことが多い季節でもあります。楽しい期間であるからこそ、その楽しさを台無しにするのではないように、自ら気を配り、有意義な夏季休暇を送ってください。



様変わり

キャリアセンター部長
清水 和美

アベノミクスの効果か、夏休みを前に就職内定率が昨年同期を上回っているとの報道がなされた。数年前の就職氷河期の卒業生から見ると大きな様変わりと言うだろう。辞書によると「様変わり」とは、様子や情勢がすっかり変わることを指す。大学の出口を待つ部署を担当することになり自身の学生時代や、企業に就職した頃を振り返ってみると、人気が企業・業種の変遷は言うに及ばず大学生の就職活動にも大きな変化がある。

まず、就職活動の時期だが、20年ほど前は4年生の夏の盛りに始まっていた。それが数年単位で徐々に早くなり、ついには3年次の秋からとなった。来年からは反対に会社説明会は3年次3月から、採用の決定は4年次の8月以降と遅くなる。公務員の場合はどうか、本当に夏までに内定は出ないのか、学生も不安だがキャリアセンターの職員も新しいスケジュールの準備に今から忙しい。

次に、学生が就職活動に用いるツールも従来は就活ノートが主であったが、近頃はスマホとネットである。インターネットでの本格的な応募(エントリー)が開始されたのが2000年頃であったが、IT系企業のN社へのアクセスが10万件を超えたとの噂を聞き驚いた覚えがある。今では通学の途中でも就職サイトのネット検索で企業を選ぶことが出来る時代になった。スマホの利用も当たり前になり、志望動機の下書き・会社説明会への応募・会場までの交通調べ(これが案外、便利とのこと)等々である。当然、企業からの採用連絡もメールである。不採用のメールに書かれる「今後の活躍をお祈りします」の文面から、不合格を表す「お祈りメール」が話題の言葉にもなっていた。

その他にも最終面接の採否の割合が従来と逆転したことや、企業研究に「会社四季報」を使わなくなったこと(有用な情報が満載なのですが)等、様変わりが随所で起きている。そのような情勢の中で3年生の諸君は秋から本格的な就職準備に入るようになるが、廻りの環境変化に敏感であって欲しい。人生の中で大きな出来事であるが、就活は同年代の皆が初めて体験することであり、その内容も毎年様変わりしている。詳細な企業研究、自身の特徴を自己分析、面接の対策、廻りへの相談、分からないことは何でも聞いて。この時期からの活動を疎かにすることで卒業後に難渋するものが多いのも事実である。卒業時のアンケートでも、「早くから活動を始めればよかった」が常に反省事項の上位である。3年生の皆さん、キャリアセンターは何時でも相談のついでです。この夏休みを将来へのステップとして過ごすことを期待しています。

平成26年度 古川学術研究振興基金研究費 交付者一覧				
学部	職名	名前	研究課題	交付金額(円)
法学部	准教授	三上 正隆	「刑法における規範理論の現代的意義と問題点」の解明ー新たな規範理論の構築を目指してー	400,000
法学部	准教授	杉原 文史	フランスの行政裁判による実効的救済保障における基本的自由保護迅速審理の意義	400,000
薬学部	助教	高橋 知里	新規電子顕微鏡観察法に基づく歯周病治療目的とした高分子ナノ粒子ドラッグデリバリーシステムの設計	400,000
薬学部	助教	松村 実生	「見捨てられた病」に挑む新規薬効分子の創製	400,000
歯学部	助教	秦 正樹	歯髄幹細胞と足場材料を用いた骨組織再生に関する研究	400,000

平成26年度 古川学術研究 振興基金研究費 5名に交付

本年度の古川学術研究振興基金による学術研究費の交付者が決定し、交付伝達式が7月16日(水)、日進キャンパス学長室で行われた。



平成26年度支部懇談会 盛況のうちに全日程終了

全国24会場で開催された支部懇談会は、全会場とも多数の後援会会員の出席のもと開催され、6月29日(日)をもって平成26年度の全日程が無事終了した。



2014年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)配分一覧
(件数: 大学94件、短期大学0件 直接経費配分額: 大学168,200,000円)

研究代表者氏名	所属学部	職	研究種目	直接経費 (単位: 千円)	研究期間全体の 直接経費合計 (単位: 千円)	研究課題名
田尾 雅夫	経営学部	教授	基礎研究(A)	10,300		行政改革のインパクトとポストNPMへの展開に関する総合的研究
佐藤 倫正	商学部	教授		7,400		国際会計の概念フレームワークに関する総合的研究
大澤 俊彦	心身科学部	教授		10,700		アルキルアミド型付加体をプローブとした脳内老化評価システムの確立と応用
夏目 長門	歯学部	教授		2,700		なぜモンゴル人は口唇口蓋裂患者が少ないのか—乳製品の予防効果判断—
夏目 長門	歯学部	教授		4,600		口蓋先天異常疾患関連遺伝子解析研究—遺伝子バッキングシステム拠点形成—
古川 博雄	心身科学部	准教授	基礎研究(B)	9,700		エチオピア先天異常児の形態調査—いわゆる「まびき」撲滅を目指して—
松原 達昭	歯学部	教授		6,000		地域住民を対象としたエビデンスに基づく疫学調査の構築
横田 充弘	歯学部	教授		2,100		生活習慣病の遺伝子リスクマーカーの信頼性に関する検証的疫学研究
南 克浩	歯学部	講師		4,100		発展途上国に対する口唇口蓋裂医療援助活動の効果を評価する指標
嶋崎 義浩	歯学部	教授		1,200		加速度センサーを用いた運動疫学研究による肥満と歯周病の因果関係の解明
轟木 敦子(中村)	文学部	准教授	基礎研究(C)	600		11・12世紀イングランドとノルマンディにおける貴族権力と君主権力
遠藤 哲也	教養部	講師	新学術領域研究 (研究領域提案型)	10,400		哺乳類における四肢再生系の構築
加藤 大貴	歯学部	非常勤助教	研究活動スタート支援	900		エストロゲンレセプター発現による口蓋突起形成メカニズムの解明
岩佐 宣明	教養部	講師	研究成果公開促進費 (学術図書)	1,800		デカルト全書集 第七巻
早川 統子	心身科学部	講師		2,400		Understanding of Education for training Speech Language Hearing Therapist in Japan —Educational curriculum for Speech Language Hearing Therapist and professional content— Text book for Oral Care
夏目 長門	歯学部	教授		4,000		
引田 弘道	文学部	教授		1,100	3,300	「アヴァダーナ・カルパター」を中心とした仏教信仰の諸相
林 淳	文学部	教授		1,300	3,600	近世日本における儒学の展開と儒の流通に関する宗教社会学的研究
菊池 一隆	文学部	教授		1,000	3,800	第二次世界大戦期におけるイギリス帝国下地域域の華僑動態研究
黒木 真子(松井)	文学部	准教授		1,000	3,700	オスマン帝国—ヨーロッパ諸国間関係の歴史的展開
杉山 知子	総合政策学部	准教授		600	2,400	グローバルな規範形成とローカルな記憶形成—ラテンアメリカの人権NGO・学習・連帯
多田 真	経済学部	教授		1,000	3,500	国際的公共インフラ供給のための国際分業の理論的分析とその東アジアへの適用
古野 忠秀	薬学部	准教授		1,300	3,800	神経刺激による脳内細胞のシグナル伝達とホルモン分泌調節のダイナミクス解析
森田 雄二	薬学部	准教授		1,200	3,900	多剤耐性緑膿菌のアミノ配糖体耐性阻害剤の作用機序に関する分子基盤研究
井上 誠	薬学部	教授		1,700	3,900	天然由来リチノイドX受容体アゴニストの生活習慣病、炎症性疾患の予防・治療への応用
駒田 政和	歯学部	助教		1,900	3,800	脳の形態形成と性分化における性ホルモンの意義
村木 康彦	歯学部	教授		1,500	3,800	iPS因子によるカチオンチャネルの転写制御とチャネル発現異常による疾患
吉田 康夫	歯学部	准教授		2,500	3,700	歯周病原菌の産生する細胞因子が骨吸収に与える影響の解明と制御
戸田 彰史	歯学部	教授		1,600	3,700	α 1-アドレナリン受容体を介した骨形成機構の分子薬理学的研究
鈴木 康弘	歯学部	准教授		1,300	3,700	ビデオレート生物発光イメージング法による骨形成関連タンパク質の分泌動態解析
有地 淑子	歯学部	准教授		1,900	3,800	難治性の咀嚼筋痛を有する顎関節症患者に対する治療法の確立
松本 享	歯学部	准教授		2,600	3,800	幹細胞を用いた歯髄再生におけるオートファジー—必須遺伝子LC3とAPG5の機能解析
尾関 伸明	歯学部	講師		2,600	3,800	象牙芽細胞様細胞マトリックスと骨芽細胞を用いた新規歯髄再生法の開発
中田 和彦	歯学部	教授		1,400	3,500	生体高分子ポリリン酸が間葉系幹細胞の分化に及ぼす効果
佐久間 重光	歯学部	講師		1,100	3,200	脳機能改善のための運動プログラム開発の考察
石坂 亮	歯学部	助教		1,100	3,600	歯髄・骨髄・脂肪幹細胞培養上清の再生能力比較による細胞遊走因子の同定
栗田 賢一	歯学部	教授		1,500	3,700	歯髄幹細胞を用いた新しい末梢神経損傷治療法の開発
菊池 毅	歯学部	講師		1,800	3,700	歯周組織の炎症性反応に対する糖質代謝の影響の解析
鈴木 一吉	歯学部	講師		1,000	3,000	歯学教育における説明・指導場面での医療コミュニケーション教育プログラムの開発
梅川 正美	法学部	教授		1,000	3,600	イギリスの領土紛争としてのフォークランド戦争の研究
成田 寛	心身科学部	准教授		600	3,600	失語症患者と家族介護者の包括的心理的介入と多職種間の機能的連携システムの開発
山本 浩亮	薬学部	教授		1,200	3,700	歯周病治療を目的とした低侵襲型高分子ナノ粒子DDS製剤の設計
河村 好章	薬学部	教授		800	4,000	炎症性腸疾患の起因微生物の特定と治療・予防への展開
永野 恵司	歯学部	講師		800	3,400	歯周病原菌の定着機構の解明: 炎症性環境下での感染実験系の構築と線毛機能の解析
有地 栄一郎	歯学部	教授		1,000	3,900	弱い持続性噛み締めによる咀嚼筋痛の発生に脳活動はどのように関与するか
後藤 満雄	歯学部	講師		1,500	3,800	口腔扁平上皮がんの浸潤転移、薬剤耐性におけるがん幹細胞ならびに上皮間葉移行の役割
樋口 直也	歯学部	講師		700	2,600	ヒトIPS細胞を用いた新たな直接複製法の開発
宮澤 健	歯学部	教授		1,400	3,800	臨床応用を目指した固定源のための生体内吸収性メッシュ状インプラントシステムの開発
竹下 修子	文学部	教授		1,000	3,900	定量的・定性的分析を併用した日本の国際福祉能力をめぐめる家族形成の包括的検討
中西 守	薬学部	教授		800	4,000	次世代バイオ・ナノ遺伝子ベクターの構築と医療薬学への展開
池田 やよい	歯学部	教授		1,100	4,100	生殖腺を欠く遺伝子破壊マウスを利用した脳の性分化分子機構の研究
福井 勇男	歯学部	教授		700	4,200	歯科用金銀パラジウム合金の高温処理によるB2型規則相の析出と特異硬化挙動
尾澤 昌博	歯学部	准教授		700	4,000	インプラント埋入荷重の動解析
片山 和男	心身科学部	教授		1,300	4,100	口唇口蓋裂ならびに口蓋裂唇舌に起因する心理的ケアに関する研究
吉田 憲司	歯学部	教授		1,200	3,900	口腔がん可視化による早期診断のための光イメージング法に関する基礎的研究
森田 匠	歯学部	講師		800	2,800	ウサギ咀嚼様運動時の咀嚼部位による下顎運動の変化と咀嚼筋活動の調節機構
後藤 滋巳	歯学部	教授		1,500	4,000	特異的破骨細胞抑制剤による効率的な骨移動と歯周病予防システムの開発
三谷 章雄	歯学部	教授		700	4,100	炎症性歯周組織におけるTh17細胞に対するIL-35の影響
林 潤一郎	歯学部	講師		1,200	4,100	歯周病細菌性因子の解明を目指したブランク由来臨床株の分離とそのゲノム解析
福田 光男	歯学部	教授		900	2,500	T-RFLPを用いた歯周病細菌と歯肉組織の相互伝播の解明
石原 裕一	歯学部	准教授		600	4,100	IL-1Ra欠損マウスを用いた歯周組織破壊におけるIL-1Raの影響
加藤 一夫	歯学部	准教授		1,000	3,500	ジェット水流による口腔バイオフィルムの構造と菌叢への影響の定量的評価に関する研究
丹下 博文	経営学部	教授		700	3,700	物流・ロジスティクスと中国への学術的な応用可能性に関する研究
水藤 弘史	心身科学部	講師		1,700	3,000	競泳スタートにおける飛び出しから入水後までの定量的評価法の確立
田邊 宏樹	薬学部	講師		1,400	3,000	腸管粘膜免疫細胞に対する漢方方剤の作用解析
上井 優一	薬学部	講師		1,100	2,000	腎臓物トランスポートの発現変動に起因する薬物相互作用とその分子機構
水野 光政	歯学部	助教		1,300	2,900	脂肪由来間葉系幹細胞を用いた次世代歯科治療技術の開発
稲本 京子	歯学部	講師		700	1,800	fNIRSと心電図電位変動を用いた痛みの客観的評価に関する研究
川合 皇純	歯学部	非常勤助教		2,200	2,900	高純度象牙芽細胞を用いた歯髄再生におけるMMP-3とEmmprinの新規機能解析
坂根 瑞	歯学部	助教		2,700	3,000	表面形状計測法を応用したインプラント前処置の骨格評価法について
鈴木 聡	歯学部	非常勤助教		1,500	2,700	国際共同研究による日本人とベトナム人口唇口蓋裂責任遺伝子の同定と多品種比較研究
神谷 洋介	歯学部	非常勤助教		1,000	2,900	炎症性骨代謝における新規サイトカインIL-35の役割について
佐久間 英規	歯学部	非常勤講師		1,400	2,900	造血幹細胞移植における口腔管理及び慢性口唇GVHDの病態解明に関する検討
波多野 紀行	薬学部	講師		1,700	2,900	味覚障害治療に向けた味覚細胞における亜鉛流入分子の同定
吉岡 文	歯学部	講師		1,100	3,100	エビデンス制作における新しい彩色法の臨床応用
西田 英作	歯学部	非常勤講師		800	2,800	歯周病由来SAAによる動脈硬化発症機序の分子生物学的アプローチ
杉浦 進介	歯学部	非常勤助教		700	3,100	薬物性歯肉増殖症の発生に果たすHMGGB1の役割に関する研究
相野 誠	歯学部	助教		700	3,000	骨再生治療を目指したヒト歯髄由来骨芽細胞の機能解析
小澤 佑介	歯学部	非常勤助教		1,000	2,400	sIL-1RAcPの歯周病診断血清マーカーとしての可能性に関する研究
亀井 英彦	歯学部	講師		800	1,900	ニコチン代謝能の低下は喫煙関連歯周炎を増悪するか? : CYP2A6遺伝子多型の解析
佐藤 琢麻	歯学部	助教		700	3,200	神経制御による歯の移動のコントロールと歯槽骨量減少抑制薬の開発
夏目 敬光	歯学部	講師		500	1,500	近赤外線分光法を用いた歯根膜の知覚による脳活動の解析
竹田 真紀子	総合政策学部	講師		800	2,600	日本の大学英語教育におけるプログラム評価基準の構築
前田 太郎	法学部	講師		700	2,700	スイス及びオーストリアにおける企業責任法理の研究
平塚 真生	歯学部	講師		800	3,500	関節軟骨におけるPTHrP/PTHrP受容体の新規機能の解明
石寄 大介(児玉)	歯学部	助教		700	2,900	神経—骨芽細胞共培養系における細胞間シグナル伝達機構の解明
石塚 恭子	歯学部	非常勤助教		1,300	3,300	破骨細胞形成に及ぼすニューロペプチドの影響
渡辺 輝也	心身科学部	講師		500	2,100	初心者を対象とした歯面磨きの新しい学習指導プログラムの確立
児玉 さやか(菅)	教養部	講師		500	1,800	言語コミュニケーションによる先入観の共有過程の解明
長谷川 義明	歯学部	講師		700	3,200	歯周病細菌の線毛構築機序の総合的理解
加藤 佳代(鈴木)	総合政策学部	講師		300	1,800	健康の社会的決定要因をめぐめる質的ライフコース研究
柳原 雅人	心身科学部	教授	挑戦的萌芽研究	1,300	1,800	心拍変動バイオフィードバックは抑うつ認知処理を調整するか
岡部 俊之	歯学部	講師		700	1,200	歯冠修復装置の研究基準の作成およびジョイントプラスト法による研究法の確立
夏目 長門	歯学部	教授		800	2,900	口唇裂の予防法確立に向けた挑戦・疫学結果に基づく創制的方法の臨床応用研究
				168,200		

文部科学省および独立行政法人日本学術振興会から、2014年度の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)の交付内定が発表された。本学の2014年度の採択件数は新規と継続分を合わせ94件、金額は1億6820万円。

科学研究費は、全国の大学や研究機関で行われている研究活動に必要な資金を研究者に助成する仕組みの一つ。人文・

社会科学研究から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を段階に発展させることを目的とする「競争的研究資金」。専門分野の近い複数の研究者による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成が行われる我が国最大規模の競争的資金制度で、社会の困難や障害を突破する画期的な研究成果を多く

生み出している。科学研究費の中核となる研究種目は「基礎研究」で、研究期間や研究費総額によってS・A・B・Cの4つに区分されている。また、若手研究者の自立を支援する研究種目として39歳以下の研究者を対象とする「若手研究」、学問の新たな領域の形成や挑戦的な研究を支援するものとして「新学術領域研究」や「挑戦的萌芽研究」などを設けている。

本学歯学部の研究グループが、歯周炎により引き起こされる動脈硬化の初期病変の仕組みの一部を明らかにした。歯学部の内科学講座(松原達昭教授、成瀬桂子准教授)、歯周病学講座(野口俊英名誉教授、宮島真一助教)、口腔解剖学講座(大野紀和教授)らのグループが、平成22年度から24年度の科学研究費助成事業(基礎研究C)などを用いて研究を行った。6月4日付けのオンライン総合科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されている。

松原教授らは歯周病のラットとそうでないラットの動脈の変化を比較。歯周病になった4週間後のラットでは、炎症性サイトカイン「TNF- α 」などが増えており、また、接着分子発現や転写因子活性の増加などを確認した。これまでの研究で、動脈硬化と歯周病には因果関係があるとされていたが、今回の実験で歯周病が動脈硬化を引き起こす仕組みが明確になった。松原教授は「歯周病を治療することは、口の中だけでなく動脈硬化の予防にもつながると期待できる」と話している。

5月30日(金)に中国・臨沂大学の謝 亜非副学長、劉玉清生命科学学院院长ら11名が表敬訪問に新しく開校した名城公園キャンパスを訪れた。臨沂大学の一行は新しく完成した名城公園キャンパスの施設を見学した後、大野榮人学長、引田弘道国際交流センター所長をはじめとする本学の関係者と懇談し、両校の親

睦を深めた。臨沂大学では新しい学部の設置を考えており、新校舎建設に当たって本学の名城公園キャンパスの取り組みについて大変興味を持って視察をしていた。今回の表敬訪問をきっかけとし、9月に臨沂大学との学術交流協定を締結する方向で検討がなされている。

2014年度「科学研究費助成事業」94件、1億6820万円が採択

本学歯学部の研究グループが歯周炎が動脈硬化を誘引する仕組みの一部を解明

中国・臨沂大学の訪問団が本学を表敬訪問

2014年 研修シーズン到来!



夏休みに入ると本学の年中行事である夏期海外語学研修や、新入生対象の永平寺一夜参禅が行なわれる。また、ゼミやクラブ活動の合宿も盛んに行なわれます。貴重な人やモノとの出会い、青春を謳歌できるこの機会を有意義に活用して、自己研鑽につとめて下さい。

海外語学研修 永平寺参禅



オーストラリア



Bond University ボンド大学

ホームステイを通じ、生活習慣を実体験

■大学紹介

1987年にオーストラリア初の私立大学として設立された大学。クイーンズランド州ゴールドコーストの閑静な住宅地ロビータ地区に立地し、学生数は約2000人。世界47カ国から留学生を受け入れ、予備講座を行う付属機関として「ボンド大学付属英語学校」も開設。スポーツ施設をはじめ



カナダ



University of Victoria ビクトリア大学

雄大な自然の中でのびのび英語にひたる

■大学紹介

ブリティッシュ・コロンビア州の州都にあり、1963年の創立で学生数は1万9千人。大学キャンパスには、図書館・美術館・劇場・スポーツセンターなどの施設があり、研究面では特にアジア太平洋地域の研究が盛んな大学です。

■周辺環境

カナダ最西端バンクーバー



イギリス



The University of Edinburgh エディンバラ大学

AGU語学研修開始時から伝統校で語学力UPを目指す

■大学紹介

1583年に創設された大学で、キャンパスは街の中心にある法・人文・医学・音楽・社会科学部などがあるオール・カレッジと理系の学部が集まるキングス・ビルディングに分かれています。大学の誇る英語教育センターは優れたスタッフと教材を揃えており、センター主催の語学研

修には世界各国の人たちが参加しています。

■周辺環境

中世を体感できる街エディンバラは、優雅で威厳を保つ天然要塞として名高いエディンバラ城を中心に、伝統・建築・史跡遺産が歴史の重みを感じさせます。また、興奮醒めやらぬフェスティバル (Military Tattoo) によって私たちを魅惑の中世へと導いてくれます。

■期間

8月9日～9月2日(25日間)

■コース内容

英会話を中心にイギリスの歴史

イギリスの中心地ビクトリアはイギリス文化が残るカナダ有数の観光名所です。大学構内や家・道路など街のいたるところに花が植えられ緑も多く、街の人々はとても親切で安全な街です。

■期間

8月3日～9月1日(30日間)

■コース内容

英会話力向上のため3週間半に渡って英会話の授業を行います。また、英会話以外の教養講座ではカナダの歴史・社会・経済・法律などの授業も行い、午後のアクティビティには、

め充実した設備と教育環境が整っています。

■周辺環境

ゴールドコーストの中心サーファーズパラダイスまでは車で15分ほど。海岸沿いのリゾートには無数の高層ビルがそびえる一方で、大学は静かな住宅地に位置し、水辺と自然に囲まれた広大で美しいキャンパスです。

■期間

8月2日～8月25日(24日間)

■コース内容

ボンド大学付属英語学校による約80時間の英語授業と様々



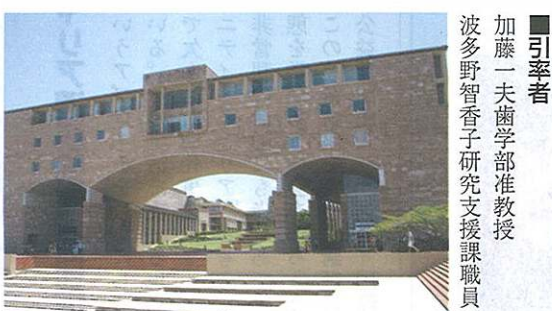
English Language Teaching Centre
http://www.ed.ac.uk/schools-departments/english-language-teaching
杉山知子総合政策学部准教授
横濱文敏入試センター係長



美術館や街に出かけてのブリティッシュ・コロンビア発見ツアーなどを行います。
English Language Centre
http://www.uvic.ca/elec
引率者
鈴木慎太郎法学部准教授
岩崎俊倫薬学部事務室職員



な課外授業を体験できるプログラムとなっています。研修後はシドニーに立ち寄り、自由研修を行います。
English Language Institute
http://www.bond.edu.au/english



引率者
加藤一夫歯学部准教授
波多野智香子研究支援課職員

永平寺一泊参禅

永平寺一泊参禅が今年も開催される。

この行事は、本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」に基づく伝統の研修行事で、厳しく真理を追求した道元禅師の精神に少しでも触れることによって、勉学や社会生活に生かすことを目的としている。坐禅を通して人間形成に資するとともに、自立できる大学人となる一助として毎年行われている。

本曹洞宗の第一道場出家参禅の道場、樹齢約700年といわれる老杉に囲まれた境内に、七堂伽藍を中心に70余棟の殿堂楼閣が建ち並んでいる。

この静寂なたたずまいの中で説法を聞き、坐禅を行うなど、尊い修行体験を味得ることが出来る。

《研修日程》

第1班
7月31日～8月1日
第2班
8月4日～5日
《参加費》1000円

海外語学研修壮行会

7月1日(火)午後12時50分より平成26年度海外語学研修壮行会が、日進キャンパス本部棟大会議室と名城公園キャンパス会議室を遠隔会議システムで結んで行われた。今年度は新たにグローバル人材育成プログラムとして実施する台湾コース(慈済技術学院8月25日～9月7日)も併せて行なった。

壮行会は、大野榮人学長、青山総後援会会長の挨拶で始まり、各コースの引率者と学生団長が挨拶と語学研修に向けての抱負をそれぞれ述べた。終わりに引田弘道国際交流センター所長より参加学生に激励の言葉があり終了した。



本学と愛知高等学校が 高大連携協定を締結

本学の系列校である愛知高等学校と本学が高大連携の協定を締結し、5月23日に調印式を行った。愛知高校から松本正孝校長、大学からは大野榮人学長らが出席して、協定書を交わした。

この協定は、双方の教育機能について交流・連携を通じて高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学の求める学生像および教育内容への理解を深め、活性化させることを目的としている。

今後は大学教員による高校への出張講義の実施、大学の



授業科目への特別聴講生の受け入れ、教育についての情報交換および交流などを行う予定で、同一法人である愛知高等学校と更なる関係強化を図っていく。

中部圏社会経済研究所と 本学経済学部が講義提携

公益財団法人中部圏社会経済研究所と本学経済学部が講義提携を結び、提携講義に関する覚書の調印式が5月29日、名城公園キャンパスで執り行われた。中部圏社会経済研究所から小林宏之代表理事、本学からは大野榮人学長、後藤俊明経済学部長らが出席した。

同研究所は中部広域9県を対象エリアとする総合的・中立的なシンクタンクであり、同研究所が展開する中部圏経済の調査研究の事例や手法を本学学生に教授することにより、産学連携の実践的な教育を通して地域経済の担い手となる学生を育成し、中部圏経済の発展に寄与することを講義の目的としている。



講義名は「エリア・リサーチ」。同研究所の研究員を中心とするリレー形式で行なわれ、フィールドワークも予定されている。秋学期に商学部・経営学部・経済学部の3学部共通科目として2年次以上の学生を対象に開講され、名城公園キャンパスで展開しているビジネス系3学部の学部横断的な学びを象徴するものである。

硬式野球部

全日本大学野球選手権大会で 27年ぶりのベスト4

本学野球部は、愛知大学野球春季リーグ戦で優勝し、6月10日から明治神宮球場ほかで開催された第63回全日本大学野球に出場した。

大会初日の1回戦は苦小牧駒澤大学(北海道学生連盟)と対戦し、5-0で勝利を収めた。12日の2回戦は3-0で道都大学(札幌学生連盟)に勝利。翌13日の3回戦は、福井工業大学(北陸大学野球連盟)と対戦。3回に源田壮亮内野手(総合政策学部4年・主将)のソロホームランで先

総合政策学部3年 山内選手 全日本代表としてFIVEバレーボール ワールドリーグ2014に出場

本学バレーボール部に所属する山内晶大選手(総合政策学部3年)が、4月に男子バレーボールの全日本代表メンバーに選出され、5月に始まったFIVEワールドリーグ2014に出場した。



FIVEワールドリーグは、FIVE(国際バレーボール連盟)主催の世界のトップチームが参加するリーグ戦で、各国でホーム・アンド・アウェイ方式のリーグ戦を行う。日本チームは5月からの前半戦でドイツ、フランス、アルゼンチンで試合を行い、6月14日からは日本国内で後半戦が行われた。山内選手は先発メンバーとして起用され、204センチの身長を活かした打点の高いサーブで相手を崩すなどの活躍をみせた。

地域連携センター主催 第1回コミュニティ・キャリア連続講座を開催

地域連携センター主催のコミュニティ・キャリア連続講座第1回セミナーが6月24日(火)、午後5時より名城公園キャンパスキャッスルホールにおいて開催された。

この連続講座を企画。講師に公益社団法人シャント国際

大学生のための特別講演会のお知らせ(入場無料)

愛知学院大学大学生のための特別講演会が下記の通り開催されます。学生生活に活かすことのできる素晴らしいお話を聞くチャンスです。一般の方もご参加いただけますので、整理券をお求めの上、ぜひご参加ください。

6回	7回
【日時】：平成26年10月1日(水) 15:30~17:00	【日時】：平成26年11月10日(月) 15:30~17:00
【講演者】：安藤 美姫 氏	【講演者】：茂木 健一郎 氏
【演題】：あきらめない！ ～安藤美姫 ストーリー～	【演題】：脳と創造性 ～自分を輝かせる ための秘訣～



【場所】愛知学院大学 日進キャンパス 100周年記念講堂

【整理券の配布】

日進キャンパス：学生課 窓口
楠元キャンパス：歯学部・薬学部事務室 窓口
名城公園キャンパス：名城公園キャンパス事務室 窓口

9月15日(月) 9時～ 10月6日(月) 9時～

お問い合わせ先：愛知学院大学 学生課
TEL: 0561-73-1111

愛知学院大学モーニングセミナー 第1000回記念講演を開催

池上 彰 本学特任教授が講演

市民公開講座として平成18年4月から開催している愛知学院大学モーニングセミナーが今年7月に第1000回目を迎えた。これを記念して本学特任教授の池上彰氏を講師に



池上先生はセミナー直前に配布された8日の中日新聞朝刊に掲載されている最新のニュース記事を題材に、どのような視点で読み取ればよいのか、池上流で解説された。また、記事について大変理解しやすいユーモアを交えてお話

平成26年度モーニングセミナー講師予定

回数	開催日	演題	所属・講演者
103回	10月14日(火)	「運動すれば算数ができる!」 最近の脳科学研究が解明 これほんと!—— NPO法人健康な脳をつくり 理事長 元名古屋市長 西野仁雄 先生	大蔵千穂 教授
102回	9月9日(火)	「家計から考える老後の生活」 これからの人生をより充実したものにしていくために—— 岐阜大学 教育学部 家政教育講座 三谷章雄 教授	大蔵千穂 教授
101回	8月12日(火)	「歯周病とはどんな病気?」 知っているようで知らない病気の本质—— 愛知学院大学 歯学部 歯周病講座	三谷章雄 教授

※予定変更の場合もありますのでご了承ください。
※いずれも午前7時～午前8時
【会場】愛知学院大学歯学部(楠元キャンパス)100周年記念講堂
【連絡先】愛知学院大学歯学部 モーニングセミナー係
【電話】0562-751-2561

館が私の人生を変えた」と語ったことをきっかけにカンボジアのシャント国際ボランティア会での活動を始めた。その後日本での活動中、東日本大震災が発生。5日後には岩手県気仙沼市に活動拠点を立ち上げ、当初は炊き出し、学用品・生活物資等の配付を行った。その後は津波で被害

